

VI 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2016年2月6日(土) 10:00～18:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：受講者40名、JICA 2名、NIED 5名、オブザーバー2名、合計49名
- ◆ ファシリテーター：(特活) N I E D・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第4回のねらい

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修ふりかえり／実践の共有」 10:04～12:08

1. 主催者あいさつ／講座全体及び第4回のねらいの確認 10:04～[10]

- ◇ JICA 中部木村職員が開会を宣言し、第4回にオブザーブ参加するJICA九州専門嘱託の紹介を行った。
- ◇ 研修全体の目的と第4回のねらいをファシリテーターが説明し、確認した。

2. アイスブレイキング～自己紹介 10:14～[12]

- ◇ なるべく多様なメンバーになるよう属性などを参加者同士で紹介し合い、グループを作った。
- ◇ 「2016年を漢字1字に表すと」を各自考え、漢字とその理由をグループで伝え合った。



3. アイスブレイキング～参加型学習のポイント「発散と収束」体験アクティビティ 10:26～[61]

- ◇ ファシリテーターから、参加型学習のポイント「発散と収束」について説明した。

<参加型学習のポイント>

発散…大勢でアイデアを出し合うことで、いつもとは違う気づきを得られる

収束…出たアイデアや気づきをそのままにするのではなく、テーマにそってまとめていく。

- ◇ 発散の体験…次の3つのテーマでブレインストーミングを行った。

- ① グループメンバー全員に共通すること
- ② 「懐かしいもの」と言えば
- ③ 「人に役立つもの」と言えば

<ブレインストーミングのポイント>

・質より量 ・否定より提案 ・結合と発展 ・斬新なアイデア大歓迎

- ◇ 収束の体験…次の場面設定でシミュレーションゲームを行った。民主的な話し合いのプロセスを意識しながら話し合いをし、アイデアを模造紙にまとめた。

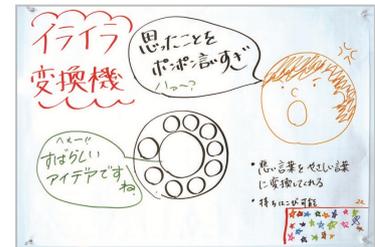
場面：とある会社の若手精鋭社員になる。上層部から、「どこか懐かしい人に役立つロボットを、10分間で企画提案せよ」との指示。メンバーで企画会議を行う。

<民主的な話し合いのプロセス>

- ・言葉も含めて暴力禁止
- ・自分の意見は非攻撃的に自己主張する
- ・他者の意見を傾聴する
- ・代案提案を繰り返し、全員の合意点を探す

- ◇ 1グループ1分間のプレゼンテーションを行い、成果を全体で共有した。
- ◇ 1人3点を持ち点とし、模造紙に★印を書き込んでランキングを行った。ただし、自分のチームには入れない。また、1チームへの投票は最高2点までのルールとした。
- ◇ 参加型学習を進めるファシリテーターの主な4つの役割をレクチャーした。

【発散と収束体験の成果例】



<ファシリテーターの主な4つの役割>

- ① 場づくり…気持ちよくみんなで自由に話せる場を作る。
- ② 関係づくり…参加者同士の信頼関係を作る。
- ③ 構造化…アイデアを出すまでの順番と段取りを組み立て、解決策やよりよいアイデアにつなげる。
- ④ 合意形成…2項対立よりも提案を促し、その場に合わせた手法を使い、合意形成に向けた後押しをする。

- ◇ ワークをふりかえり、感想をグループ内で共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…参加型学習は、参加と対話を重ね、自由な発想とアイデアを共有しながら進めていく。アクティブラーニングのポイントでもある。場と関係づくりの土壌として、1人ひとりの自己肯定感とコミュニケーション力が育まれることが大切。小学校低学年はセルフエスティーム、中学年はコミュニケーション力、高学年は社会性を、それぞれ育てることに時間を費やせるとよいと考える。

4. グループ替え、一言自己紹介 11:27-[11]

- ◇ じゃんけんで勝った人2人、負けた人2人が前後のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ グループ内で、「何にでもなれるとしたら何になりたい？」というお題で自己紹介を行った。

5. 第1回～第3回研修のふりかえり 11:38-[23]

- ◇ 第1回～第3回研修の記録（ダイジェスト版）を各自読み、印象に残ったところに下線を引いた。
- ◇ 「研修の中で印象に残っていること3つ」「研修を通して起こった自分の変化を3つ」をA4用紙に書き出し、グループで伝え合った。

6. グループ作り 12:01-[07]

- ◇ 名札に書かれている数字によって奇数・偶数に分かれ、実践共有に向けたグループを作った。

- 休憩 - 12:08-[63]

● セッション2 「実践の共有Ⅱ／実践報告フォーラム2016の準備Ⅰ」 13:11-17:35

1. 実践の共有Ⅱ 13:11-[148]

- ◇ グループメンバーの実践報告シートを各自読み、「ここいいね!」「もっと聞きたい」と思ったことをメモした。
- ◇ 1人ずつ、グループ内で実践報告を行った。報告時間は、当日の予行演習も含めて1人6分間ずつとした。
- ◇ メモの内容を基に、グループメンバーからのフィードバックを行った。時間は4分間とし、「いいね」と思った部分を重点的に伝えるとともに、「こんな風につながられる」や「こんな可能性が考えられる」など、次につながる提案を伝えた。
- ◇ 5分間の休憩を挟み、奇数・偶数ごとにグループ替えをし、同じ手順で報告を行った。

2. グループ替え 15:39-[6]

◇ 奇数グループは1~4、偶数グループは5~8の番号をふり、同じ番号の人同士で指定のテーブルに移動した。

- 休憩 - 15:45-[10]

3. 開発教育・国際理解教育のできること

…実践を通じた成果・よい影響（自分／学習者／周囲） 15:55-[19]

◇ 研修と実践を通して開発教育・国際理解教育のできることとして、得られた成果・よい影響（自分／学習者／周囲：同僚・保護者・地域など）をグループで話し合い、模造紙に表形式にまとめた。

◇ 模造紙の回し読みにより共有し、良いと思うアイデアに☆を付けた。

【開発教育・国際理解教育の実践で得られた成果・よい影響（自分／学習者／周囲）のまとめ】

① 自分にとって

- ◇ 連帯感 ◇ 新たな気づき ◇ 自己肯定感が高まった、自信がもてた ◇ アイデンティティを確認&再構築
- ◇ 肯定的に相手を見られるようになった ◇ がまん（答えに急がない） ◇ 認められる視点が広がった
- ◇ 生徒のよいところを発見！ ◇ 肯定的に物事を捉えられるようになった ◇ 1人で悩まなくていい
- ◇ 仲間が増えた・仲間と出会えた ◇ いろんな人と接するのが楽しい ◇ 思っていることを言える
- ◇ 前向きになれる（人生・授業などいろいろ） ◇ チャレンジの気持ち ◇ 学習者になれる
- ◇ 学習の楽しさに気づいた ◇ 準備が楽しくなった ◇ 具体的に階段をふめるようになった
- ◇ アンテナが広がった ◇ 価値観が変わった ◇ 自分の行動を改めた ◇ ステレオタイプからの脱却
- ◇ 発信することの大切さ ◇ 多様な教材に参加型を取り入れた ◇ スキル、手法、経験を得た
- ◇ 教育の多様化 ◇ プログラムを作れるようになった

② 学習者にとって

- ◇ 連帯感 ◇ 新たな気づき ◇ 安心感 ◇ 楽しい ◇ 笑顔が増えた ◇ 授業に前向き・積極的
- ◇ 主体的に考えるようになった ◇ 話しやすい環境になった ◇ 人の話を楽しそうに聞くようになった
- ◇ 自分の考えを伝える力 ◇ 意見が話し合いでまとまるようになった ◇ コミュニケーション能力UP
- ◇ 協働することのよさ ◇ 役割がある ◇ 自分の意見を言ったり相手の意見を聞いたりすることの大切さ
- ◇ 共に考える活動 ◇ 1人ひとりの考えが大切と思う子どもが増えた ◇ 子ども同士仲良くなった
- ◇ クラスメイトの意外な面に気づいた ◇ クラスの雰囲気が悪くなった ◇ 生徒自身も理解が深まった
- ◇ 視野が広がった ◇ より自分事として捉える ◇ 世界のへの関心UP ◇ 日本の良さ再確認
- ◇ ステレオタイプから脱却 ◇ 学びの連鎖・学びの多様化 ◇ 授業だけでなく生活の中にもつながる

③ 周囲（同僚・保護者・地域など）にとって

- ◇ 連帯感 ◇ 新たな気づき ◇ 学びの場の提供 ◇ 問題意識を持ってもらうためのきっかけづくり
- ◇ お互いの認め合いが深まった ◇ 前向きに取り組んでくれるようになった ◇ 家族の理解UP
- ◇ 参加型の活用 ◇ 教材や手法が増えた ◇ 教材費に理解を示す ◇ 視野が広がる
- ◇ 選択肢が増える ◇ 楽しそうと思ってもらえる ◇ 興味をもってくれる ◇ 新鮮に捉えてもらった
- ◇ 客観的にみてもらえる ◇ フェアトレードに貢献 ◇ エルサルパドル・ガーナについて知ってもらえた
- ◇ この研修のことを知ってもらえた ◇ 同僚が研修に興味を持った、後輩が次に続きそう ◇ 参加型流行！

4. よりよい参加型、よりよいファシリテーションのポイントとは？ 16:14-[21]

◇ 研修と実践を通して、よりよいファシリテーションのポイントだと思うことを「発散」→「収束」のプロセスを意識してグループで話し合い、模造紙に7箇条にまとめた。

◇ 模造紙の回し読みにより共有し、良いと思うアイデアに♡印を付けた。



【 よりよい参加型・ファシリテーションのポイント7箇条 】

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ① 楽しく！元気に！！ | ① 安心感をもてる場がある！ |
| ② 雰囲気作り | ② 資料提示のタイミングが良い |
| ③ 流れ | ③ 計画性（流れ・時間・ねらい） |
| ④ 時間配分 | ④ 自分も楽しむ！ |
| ⑤ アクティビティと発問の整理 | ⑤ 全員が参加できる！ |
| ⑥ 発言をひろう！ひろげる！ | ⑥ 次につなげる！ |
| ⑦ 常に肯定的！ | ⑦ 継続！ |
| ----- | |
| ① 受容性 | ① 笑顔でやるべし！ |
| ② リラックスできる場づくり | ② 安心して聞ける・話せる土台を作るべし！ |
| ③ 参加者に寄り添う | ③ 体と頭と心が動くプログラムを作るべし！ |
| ④ 時間管理 | ④ プログラムの内容を精選すべし！ |
| ⑤ 適切な発問・指示 | ⑤ 待つべし！ |
| ⑥ 視覚化 | ⑥ 周りを巻き込むべし！ |
| ⑦ 役割を平等にふる | ⑦ 参加型が全てではないということを覚えておくべし！ |
| ----- | |
| ① 楽しい、明るい、元気 | ① アンテナを高くして知識を得る |
| ② 肯定する、尊重する | ② 敷居を低くしてOPENに！ |
| ③ ねらいを明確にしてぶれない | ③ シンプルな構成力（やることが明確） |
| ④ 引き出す | ④ 自分も参加者も楽しめる！！ |
| ⑤ 学習者の思考の流れを知る | ⑤ 失敗なんてへっちゃら！自分も楽しむ！ |
| ⑥ タイムマネジメント | ⑥ たまには海外に行って、本物体感 |
| ⑦ 必要な場で必要な声かけ | ⑦ れいちえる越え！ |
| ----- | |
| ① 何でも言える環境をつくる | ① 楽しむ！！ |
| ② 流れをつくる、軌道修正 | ② 認める・寄りそう・受けとめる |
| ③ 時間の管理 | ③ 段階・メリハリ・広がりプログラム |
| ④ 多様な方法を知っている | ④ みんなが主役 |
| ⑤ 客観的な情報を持っている | ⑤ 可能性を残す |
| ⑥ わかりやすい説明 | ⑥ 身近なテーマ設定 |
| ⑦ 公平、公正な態度 | ⑦ キラーパス・アシスト・ゴールフリー |

5. 実践報告フォーラム 2016 の進め方と各自の動きの説明 16:35-[37]

- ◇ 配付資料「実践報告フォーラム 2016 のプログラム」と昨年度の写真（パワーポイント）を基に、当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。
- ◇ ファシリテーターコメント…ワークショップを提供にあたり NIED が大切にしているのは 3 つの信じる力「自分を信じる」「参加者を信じる」「参加型の力を信じる」を伝えた。

6. 実践報告フォーラム 2016 の確認事項 17:12-[23]

- ◇ 実践体験ワークショップ担当メンバーから、内容の共有を行った。
- ◇ 海外研修発表の順番と、実践報告フォーラム 2016 の最後に挨拶をする研修受講者代表者を、事務局推薦により決めた。
- ◇ 実践報告フォーラム 2016 を通して、「参加者に持ち帰ってほしいこと」「自分自身が期待すること」「自分が貢献できること」を各自考え、グループ内で発表した。

● セッション3 「実践報告フォーラム 2016 の準備」 17:35-18:00

1. 個人の実践報告、実践体験ワークショップの準備及び相談 17:35-[25]

- ◇ 各自、必要な準備や相談、打合せを行った。

★ 18:00 終了